

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272501016		
法人名	社会福祉法人 七戸福祉会		
事業所名	グループホームクオレ七戸 I		
所在地	青森県上北郡七戸町太田野19番地4		
自己評価作成日	令和4年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居後も家族や地域の方々と良好な関係が築けるよう、併設されたデイサービスへの行き来を自由にし、馴染みの関係が途切れることのないように対応している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム利用者は併設しているデイサービスと自由に行き来できる他、敷地内にポストを設置しており、手紙を出しに行く時等に馴染みの方々との関わり合えるように支援している。 食事を準備している同法人の事業所から調理員が来て、最後の仕上げをホーム内で行う等、利用者に来て立ての料理を提供している。 また、ホームではICT化を進め、利用者の安全確保や職員の負担の軽減にも取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍にてなかなか実践できていないが、自宅と同じような生活が送れるように、地域とできるだけ関りながら、これまでの生活とかけ離れることがないよう、理念を作成して実践できるように努めている。	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解し、独自の理念を作成しており、月1回の職員会議でも確認している。また、自立を大切に考えた支援を行っており、利用者と一緒に掃除を行う等、日々、理念を反映したケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設の行き来を自由にし、地域住民とのつながりが途切れないようにしている。特に個々のお客様の友人や親戚関係の方が施設を利用する際には、会って会話できるように支援を行っている。	コロナ禍前は、老人クラブのメンバーや同法人施設の利用者との食事会を開催したり、クリスマス会等に地域住民を招待している他、山車が来て祭囃子を披露してもらう等、地域住民と積極的に交流を図り、良好な関係を構築している。また、現在も、併設している施設の利用者間で交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームでの取り組みを書簡にて報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響にて、2ヶ月に1度の運営推進会議が行えておらず、会議内容やグループホームでの取り組みを書簡にて報告している。	コロナ禍のため、現在は書面でホームの運営状況等を報告している。また、メンバーからは労いの電話や手紙をいただき、様々な意見を今後のより良いホーム運営につなげていくように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の相談員の来訪はコロナ禍にて現在止めている。書簡にて、グループホームでの取り組み等について報告している。	ホームの実態等を理解してもらうために、自己評価及び外部評価等を提出し、報告を行っている。また、感染症対策等の具体的なアドバイスをいただく等、日頃から行政と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束について勉強会を行っている。日々のミーティングにおいて、個々の事例を身体拘束に当たらないか話し合い、確認し、身体拘束を行わないケアを実践している。	虐待防止委員会や身体拘束廃止委員会を設置しており、定期的に会議及び内部研修を行っている。また、やむを得ず身体拘束を行う時は、本人や家族等から同意を得て、経過等を記録に残す体制である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の対応や声のかけ方についても、虐待につながらないように気をつけ、ミーティング時等で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に沿って説明し、項目毎に質問、不安点を確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様の苦情や不満については、職員やケアマネジャーと話す機会を設けている。	日頃から利用者とのコミュニケーションを大切にしており、こまめに声がけをして、反応等からも意見等を察している。また、重要事項説明書に苦情相談窓口を明示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、職員の意見を聞く機会を設けている。	ホームでは、職員の意見が反映される仕組みを整えている。また、勤務体制等、利用者や職員との馴染みの関係を保てるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を取り入れ、向上心を持って働けるように努めている。職員の勤務状況をしっかり把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に他部署の勤務に入り、働きながら色々なケアや技術について学び、身に付けられるように実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて、情報交換や他事業所の見学等、サービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様本人、家族様から、困っている事や不安等、ゆっくり話す機会を作り、安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様から不安な事や困っている事等、相談できる機会を持ち、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お客様や家族様、関係機関と連携を図り、必要なサービスを見極め、提供できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様が得意な軽作業、できる事を職員と一緒に行うことにより、役割を持って継続して生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と連絡を密にし、職員、家族様と共に支え合い、お客様が安心して楽しく生活できるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来ていただけるように配慮している。併設のデイサービスと積極的に交流を行っている。受診や買い物に出かけた際には、本人様の自宅周辺や馴染みの場所を通るようにしている。	併設するデイサービスの利用者が入居することが多く、日頃から馴染みのデイサービス利用者と交流できるようにしている。また、電話の取り次ぎや年賀状のやり取りをお手伝いしている他、リモート面会を行い、これまで大切にしてきた関わりを継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係を把握し、トラブルのないように配慮している。職員も会話に参加して、お客様が孤立することのないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、お客様や家族様の相談にでき得る限り応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様や家族様の希望、意向の聞き取りを行い、個々に合ったケアを行っている。ケアが困難な場合は、再度お客様に合うケアを検討するように努めている。	各担当者の気づき等を利用者の立場に立って検討し、思いや意向の把握に努めている。また、家族や本人をよく知る関係者からも情報収集し、よりよいケアに反映させるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様や家族様、ケアマネジャーから聞き取りをし、状況の把握に努めている。日常生活の中からも、これまでの暮らしの状態を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカルテ(業務支援システム)の記録等、個々の過ごし方、有する力の現状の把握に努めている。また、毎日のミーティングを通して、全職員がお客様の状態を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様や家族様の思いを感じ取り、職員が様々な意見を出し合い、介護計画を作成している。	介護計画作成時には毎月行っているモニタリングを反映させている。また、家族の面会時等に利用者の状況報告を行い、意見や要望を確認している他、必要に応じて、再アセスメントを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子を個別記録に記入している。申し送りメモを夕方のミーティングで身体状況等の情報を共有し、介護計画の見直しを実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスや居宅介護支援事業所が併設となっており、行事に参加されたり、お客様や家族様が相談等ができるようになっており、様々なニーズに対し、柔軟に対応できるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は新型コロナの影響で実践していないが、本来であれば、月1回、地域相談員の方が来られ、お客様からの相談を受けて、情報を提供していただき、共有しながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様、家族様の意見、要望を尊重し、入居前からのかかりつけ医を継続して受診できるように支援している。また、当グループホームの協力医療機関、訪問看護とも連携を図りながら支援を行っている。	入居時にこれまでの受療状況を確認している他、入居後の受診についても、利用者や家族の同意を得ている。通院についても職員が付き添いを行っている他、受診結果は家族に電話等で報告し、情報共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域医療連携体制とし、週1回地域の看護師が来訪しており、健康管理や医療活動の支援をしている。また、看護師とも気軽に相談できる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	積極的に病院関係者やケアマネジャーと情報交換や情報共有をして状態の把握に努め、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お客様の状態を正確に把握するようにし、できるだけ早い段階で、家族様、医師との話し合いの場を設け、今後の支援方法等を共有して、お客様が穏やかに過ごせるような終末期ケアに取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の対応について説明をしている他、利用者及び家族、担当医師、事業所と看取り介護についての同意書をとる等、意思統一を図っている。また、月1回、看取りについて研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を受け、救急対応が速やかに行われるように取り組んでいる。また、緊急時対応マニュアルも整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、消防士より指導を受けている。また、職員や地域の方々への緊急連絡網も整備し、協力を得られるように働きかけている。	想定される災害をハザードマップで確認した上で、避難訓練を計画・実施しており、消防署からの立ち合いもある。また、設備点検も定期的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様のプライバシーを損なわないよう、敬意を表した声がけを行い、自尊心を傷つけない支援を行うよう、職員間で情報を共有し、対応を統一している。	職員の入職時に守秘義務や個人情報の取り扱いについて説明し、誓約書を交わしている。また、利用者を尊重した支援ができるよう、定期的に内部研修等を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中から本人の思いを自然と聞き出せるように会話したり、個々に合わせた説明を行っている。また、自己決定がお客様でも、本人の好みや表情、行動等から納得して生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースに合わせ、過ごしやすい場所にする支援を行うように努めているが、時折、お客様の要望に応じることができない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様が自分らしいおしゃれや身だしなみをしている。2ヶ月に1度、地域の顔馴染みの理・美容店が来て散髪されたり、衣替えの時期に職員と買い物に行き、自身で服を選んで購入している。(コロナ禍で職員が代理で買い物をしている)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒にお客様におしぼりをたたむ手伝いをしていただいたり、洗った食器を拭く手伝いをしていただくことがある。	法人全体で献立を作成している他、揚げ物の時等は調理師がホームまで来て調理する等、利用者によって出来立ての食事を提供できるよう、工夫しながら取り組んでいる。また、食事の準備や後片付けを一緒に行う等、食事の時間を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は1日の目標を決めて、できるだけ近づけるように支援している。食事は声がけや介助を行い、できるだけ多く摂取していただけるように支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力でできるお客様は見守りをして、介助が必要なお客様は介助をして、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的に声がけをし、排泄の介助や誘導を行うことで、トイレでの失敗を減らすように支援している。	職員は利用者の排泄パターンをチェック表にて把握しており、適切なトイレ誘導を行っている。また、日頃から話し合いを行い、オムツから尿取りパッドに変更する等、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	コロナ禍で散歩や運動等がうまくできていない。体操やレクリエーション、軽作業を行うことで、身体を動かしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	本人の気持ちを考え、声がけや同性介助等を工夫することで、気持ち良く入浴できるように支援している。	お湯の熱め、ぬるめ等、利用者の入浴の好みを把握し、一人ひとりに合わせて支援を行っている。また、希望があれば毎日入浴できるように対応している他、同性介助を基本とし、利用者一人に対して介護者が一人で介助する等、個別の入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールで過ごされていても眠そうなお客様には声がけをして、休みたいようであれば、居室にて休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬について、薬情や病名等の情報を職員全員が把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で十分な支援は行えていないが、お客様の表情や言動をよく見て、声がけや施設内の散歩、レクリエーションをでき得る限り行い、気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響もあり、ほとんど戸外へは行けていない。また、家族様との外出も行えていない。	日頃から利用者と一緒にゴミ捨てに出かけたり、敷地内にあるポストまで手紙を出しに行く等、利用者が気分転換できるように努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自ら管理できるお客様には、預り金を渡し、買い物をしていただき、管理できないお客様には職員と一緒に施設内の売店へ行き、買い物できるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいというお客様には職員が代わりに電話をかけ、話していただいている。また、面会はコロナ禍にて、ズームや窓越しにて行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は加湿器やエアコン等を使用し、温湿度を快適な値に維持して、BGMを流し、心地良く過ごせるように工夫している。	ホームの共有空間には大きなテーブルやマッサージチェアー、大きな壁掛けテレビ等が置かれている。また、温度計や湿度計、空気清浄機を設置し、快適な環境が保たれるように管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様同士、気の合った方と楽しく過ごせるよう、軽作業等を一緒にお願ひしたり、レクリエーションに参加していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはお客様の要望に応じた場所にテレビを配置し、使い慣れた家具も要望に応じた場所へ配置して、好みの空間作りをしている。	入居時には、できるだけ馴染みの物を持って来ていただくように声かけをしており、加湿器や冷蔵庫等の持ち込みがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の残存機能を最大限に生かせるようにサポートし、安心、安全に過ごせるように声かけを行い、日常生活に迷ったり、混乱のないように努めている。		